学校番号	2102

令和３年度　情報科

教科	情報	科目	課題研究	単位数	２単位	年次	全年次
使用教科書	―						
副教材等	―						

１ 担当者からのメッセージ（学習方法等）

これまでに修得した知識や技術を活用し、あらたな情報の世界へと挑戦する科目です。ソフトウェアの操作を中心に技術的な分野の学習をし、スキルを身につけてほしいと考えています。
年度により内容は異なりますが、基本的には調査、研究、実験、作品製作などを行います。

２ 学習の到達目標

・自ら情報に関する課題を設定し、解決を図るとともに、知識を深めることができる。
・専門的な知識と技術を活用し、創造的な作品を制作する活動をすることができる。
・情報に関する課題を設定し、その課題の解決を図る学習を通して、専門的な知識と技術の深化、総合化を図るとともに、問題解決の能力や自発的、創造的な学習態度を育てる。

３ 学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:技能	d:知識・理解
観点の趣旨	・情報を多角的・多面的に吟味し、その価値を見極めていこうとする態度 ・自らの情報活用を振り返り、評価し改善しようとする態度 ・情報モラルや情報に対する責任について考え行動しようとする態度 ・情報社会に主体的に参画し、その発展に寄与しようとする態度	・さまざまな事象を情報とその結び付きの視点から捉える力 ・問題の発見・解決に向けて情報技術を適切かつ効果的に活用する力 ・複数の情報を結び付けて新たな意味を見いだす力	・情報と情報技術を活用するための基礎・基本的な技能を身に付け、目的に応じて、情報および情報技術を適切に扱っている	・情報と情報技術を適切に活用するための知識とそれを活用して問題を発見・解決するための方法についての理解 ・情報社会の進展とそれが社会に果たす役割と及ぼす影響、および、情報に関する法・制度やマナーの意義と情報社会において個人が果たす役割や責任についての理解
評価方法	学習状況の観察 ワークシートの記述 実習作品 レポート、発表 相互評価・自己評価 等	学習状況の観察 ワークシートの記述 レポート 自己評価・相互評価 等	学習状況の観察 課題作品 発表 等	学習状況の観察 ワークシートの記述 等

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
	情報の基礎知識	・基礎知識の復習 社会と情報、情報の科学で得た知識の学びなおし ・課題の策定方法	○	 ○	○	○	a:すでに学習した内容を振り返りながら、専門的な学習をするに向けて関心をもって取り組んでいる。 b: 研究対象となる課題を設定し、文章で表現することができる。 c: 具体的な解決策をインターネットや書籍などを活用し模索することができる。 d:基礎的な知識を修得し、専門的な知識への昇華をすることができる。	授業観察 ワークシート
	グラフィックデザイン(ソフトウェア理解)	・専門的なソフトウェア(フォトショップやイラストレーター、レンダリングソフト)などを活用し、平面的、多面的なグラフィックの作成をする ・看板、ポスター製作、お菓子のパッケージづくり、CD ジャケットの製作などを行う ※器具に限りがあるため受講人数・状況によって内容は異なる	○ ○	 ○	○	○ ○	a:コンピュータグラフィックスや色彩設計に興味をもち取り組むことができる。 b:適切なソフトウェアやその機能を選択・判断し、課題を作成通して表現することができる。 c:効果的に表現する手段を考え、作成することができる。 d:色彩や配色の組み合わせによる効果、ソフトウェアの違い、活用方法などを理解し、利用できる知識をみにつける。	実習作品 ワークシート 授業観察
	コンピュータのしくみ(ハードウェア理解)	・ハードウェアの分解や組み立てを通して、コンピュータが動作する環境、しくみについて理解を深める。 ・LAN ケーブルの製作、小型コンピュータの製作、パーソナルコンピュータの解剖などを行う ※器具に限りがあるため受講人数・状況によって内容は異なる	○ ○	○	○ ○	○ ○	a:コンピュータのしくみについて興味をもち、意欲的に作業に取り掛かることができる。 b:理想的なコンピュータの形を考え、表現することができる。 c:工具をつかったハードウェア(周辺機器)の作成や、分解などの作業ができる。 d:コンピュータの動作するしくみについて理解をし、個々の役割などを知識としてみにつける。	実習作品 授業観察

	問題解決	・自ら課題を設定し、それを解決する。 テーマにそった課題を選び、各自の目線から問題解決をしていく ※器具に限りがあるため受講人数・状況によって個人もしくはグループでの活動となる	○	○	○	○	a:課題に対して多角的・多面的に研究・問題解決を意欲的に取り組む。 b:課題に対する解決策を判断し、成果を集約するとともに発表会などをもって表現・伝達できる。 c:課題の研究成果をレポートやポスター、製作物をもって作成することができる。 d:課題について個々で研究をし、知識の深化をはかり、発表をもって知識の共有を図る。	レポート 実習作品 発表会 授業観察

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:技能　　d:知識・理解

※　原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。